



2021年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年2月10日

上場会社名 株式会社まぐまぐ 上場取引所 東
 コード番号 4059 URL <https://www.mag2.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松田 誉史
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CSO (氏名) 山川 英治 (TEL) 03(5719)5703
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第1四半期の業績(2020年10月1日~2020年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第1四半期	168	—	37	—	37	—	25	—
2020年9月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第1四半期	9.32	8.66
2020年9月期第1四半期	—	—

(注) 当社は、2020年9月期第1四半期については四半期財務諸表を作成していないため、2020年9月期第1四半期の数値および2021年9月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年9月期第1四半期	1,498	1,308	87.4
2020年9月期	1,475	1,257	85.2

(参考) 自己資本 2021年9月期第1四半期 1,308百万円 2020年9月期 1,257百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年9月期	—	—	—	—	—
2021年9月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年9月期の業績予想(2020年10月1日~2021年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	700	2.6	130	△10.1	130	3.2	90	△2.6	32.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2021年9月期1Q	2,770,000株	2020年9月期	2,730,000株
2021年9月期1Q	—株	2020年9月期	—株
2021年9月期1Q	2,759,500株	2020年9月期1Q	—株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

(注) 当社は、2020年9月期第1四半期については四半期財務諸表を作成していないため、2020年9月期第1四半期の期中平均株式数（四半期累計）については記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(セグメント情報)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞が継続しており、今後の先行きが懸念される状態が続いております。海外においても、新型コロナウイルスのワクチンの普及には時間がかかるとみられており、世界経済は依然として先行きが不透明な状態が続いております。

当社を取り巻く事業環境において、プラットフォーム事業が属するデジタルコンテンツ市場につきましては、「令和2年版情報通信白書」（総務省）によると直近の市場規模（注）は前年比109.6%の2兆2,575億円となりました。また、当社のメディア広告事業が属するインターネット広告市場につきましては「2019年日本の広告費」（株式会社電通）によると2019年のインターネット広告費（媒体費のみ）は前年比114.8%の1兆6,630億円となり、前年に引続き高い成長率で推移しております。

当第1四半期累計期間における当社の業績は、売上高は168,920千円、営業利益は37,863千円、経常利益は37,317千円、四半期純利益は25,711千円となりました。

（注）当第1四半期累計期間より、直近の市場規模は「テキスト系ソフト」および「映像系ソフト（ゲームソフトを除く）」を合算した数値を記載しております。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① プラットフォーム事業

プラットフォーム事業においては、メルマガ配信プラットフォーム「まぐまぐ！」および記事販売プラットフォーム「mine」が属しております。

当セグメントの軸である有料メルマガサービスに関して、メディア広告事業と連携して新規クリエイターの獲得を促進した結果、当第1四半期累計期間において新規クリエイター数は増加しております。さらに、ライブ配信サービス「まぐまぐ！Live」に関して、有料メルマガクリエイターによるライブ配信の利用促進を進めてまいりました。加えて、ユーザーインターフェースの改善に継続的に取り組んでいくことにより、プラットフォームの利便性の改善およびユーザビリティの向上に努めております。

その結果として、プラットフォーム事業の売上高は91,190千円、セグメント利益は51,097千円となりました。

② メディア広告事業

メディア広告事業においては、Webメディアの運営および「Webメディアコンテンツ」・「メルマガコンテンツ」の広告枠販売サービスが属しております。

Webメディアにおいては、自社メディア「MAG2 NEWS（まぐまぐニュース）」「MONEY VOICE（マネーボイス）」「TRiP EDiTOR（トリップエディター）」「by them（バイゼム）」の知名度およびユーザー満足度の向上を模索してまいりました。新規ライターの新規獲得や話題性のある記事を数多く掲載し、「TRiP EDiTOR（トリップエディター）」「by them（バイゼム）」のPVおよびUU数が好調に推移した一方で、新型コロナウイルスの影響により企業の広告出稿が縮小したことで、広告単価が低下する影響がありました。また、Webメディアコンテンツ・メルマガコンテンツの広告枠販売においては、新型コロナウイルスの影響で広告需要が減少する影響を受けつつも、需要の高まりのある業種を中心に広告販売を強化する取り組みにより改善を図りました。

その結果として、メディア広告事業の売上高は77,730千円、セグメント利益は45,271千円となりました。

③ その他事業

その他事業においては、イベント企画等が属しております。イベント企画は有料メルマガクリエイターの活動の支援と促進を目的としています。当社がメルマガクリエイターの活動を支援し、活性化のサポートをすることで、メルマガクリエイターの知名度と信頼性を向上させ、ブランディングに貢献しております。

当第1四半期累計期間においては、新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、有料メルマガクリエイターを講師に迎えた講演会・イベント等を開催しておりません。今後の実施状況につきましては、社会経済への影響を考慮して慎重に実施を検討してまいります。

以上より、当第1四半期連結累計期間におけるその他事業につきましては、売上高はありませんでした。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末における総資産につきましては、前事業年度末に比べ22,251千円増加し、1,498,095千円となりました。これは主に、現金及び預金の増加13,651千円、売掛金の増加6,009千円によるものであります。

(負債)

当第1四半期会計期間末における負債につきましては、前事業年度末に比べ29,566千円減少し、189,131千円となりました。これは主に、未払法人税等の減少16,220千円、その他流動負債の減少15,114千円によるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ51,817千円増加し、1,308,963千円となりました。これは主に、オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資により資本金および資本準備金がそれぞれ11,178千円増加したこと並びに四半期純利益の計上により利益剰余金が25,711千円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年9月期の業績予想につきましては、2020年11月12日の「2020年9月期 決算短信」で公表した通期の業績予想から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,262,465	1,276,116
売掛金	107,008	113,017
前払費用	8,125	8,312
その他	329	553
流動資産合計	1,377,929	1,397,999
固定資産		
有形固定資産	10,883	9,788
無形固定資産	63,866	67,241
投資その他の資産	23,165	23,065
固定資産合計	97,914	100,095
資産合計	1,475,844	1,498,095
負債の部		
流動負債		
買掛金	11,852	11,045
未払法人税等	30,250	14,029
預り金	103,998	106,574
その他	72,596	57,481
流動負債合計	218,698	189,131
負債合計	218,698	189,131
純資産の部		
株主資本		
資本金	297,478	310,531
資本剰余金	492,237	505,290
利益剰余金	467,430	493,142
株主資本合計	1,257,145	1,308,963
純資産合計	1,257,145	1,308,963
負債純資産合計	1,475,844	1,498,095

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)
売上高	168,920
売上原価	63,569
売上総利益	105,351
販売費及び一般管理費	67,488
営業利益	37,863
営業外費用	
上場関連費用	546
営業外費用合計	546
経常利益	37,317
税引前四半期純利益	37,317
法人税等	11,605
四半期純利益	25,711

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年10月20日を払込期日とする有償第三者割当（オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資）による新株式の発行30,000株により、資本金および資本準備金がそれぞれ11,178千円増加しております。また、新株予約権の行使が行われ、資本金および資本剰余金がそれぞれ1,875千円増加しております。

これらの結果、当第1四半期会計期間末において、資本金が310,531千円、資本剰余金が505,290千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

当第1四半期累計期間（自 2020年10月1日 至 2020年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	プラットフォーム	メディア広告	計		
売上高					
外部顧客への売上高	91,190	77,730	168,920	—	168,920
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—
計	91,190	77,730	168,920	—	168,920
セグメント利益	51,097	45,271	96,369	—	96,369

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、イベント企画等を含んでおりません。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額および当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	96,369
全社費用(注)	△58,505
四半期損益計算書の営業利益	37,863

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。